

第7回陸前高田市まち・ひと・しごと総合戦略策定会議(平成30年6月7日開催)における効果検証

※ 委員から意見のあった項目のみ記載

1 基本目標等について

| 基本目標 | 内容 | 委員からの意見 |
|---------------------------------|---|--|
| 3 結婚・出産の希望をかなえ、子育てを協働で支える環境をつくる | KPI「出生数」及び「仕事と家庭の両立支援行動計画策定登録数」について | <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の出生数は311人とあるが、中には復興関係の仕事のため本市に引っ越してきた方の子どもが多く含まれており、復興関係の仕事が終わると市外に転出する可能性が高いと思われる。 働きながら子育てするための環境が整備されると、2人目以降の出産を希望する方はさらに増加すると思われることから、企業が従業員のワークライフバランスを見直し、生産性向上や働き方改革を進められるよう取り組んでほしい。 |
| | 基本施策⑤「たかたっ子、子育てサポート体制づくり」の具体的な施策「妊娠・出産・子育て総合支援の充実」について | <ul style="list-style-type: none"> 移住定住者の増加を促進するということは、近くに祖父母がいない状況で子育てする共働きの夫婦が増えるということであるため、地域や勤務先などがそのような状況にある方々に関する理解を深め、フォローできる体制づくりに努めてほしい。 両親が共働きの子どもの夏休みなどの居場所として、近所に放課後児童クラブなどがあれば、移住定住者も安心して暮らすことができる。 |
| | 基本施策⑥「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の確立」のKPI「仕事と家庭の両立支援行動計画策定登録数」について | <ul style="list-style-type: none"> 企業に対して、仕事と家庭の両立支援行動計画の策定について働きかけるとともに、計画を策定した企業が働きやすさの改善に向けて取り組んでいることをPRすることにより、求職者がもつ企業のブランドイメージを高められるよう努めてほしい。 平成29年度に計画を策定した企業は1社のみであったことから、さらに増やせるよう取り組んでほしい。 |

2 対象事業について

| 基本目標 | 基本施策 | 具体的な施策 | 事業名 | 事業内容(総合戦略策定時点の構想) | 取組状況 | 委員からの意見 |
|------------------------------------|-------------------------------|--|---------------------|---|--|---|
| 1 陸前高田市への新たな人の流れを創造し、「思民」が集うまちをつくる | ① 「陸前高田思民」の拡大と市民総活躍の環境づくり | 陸前高田に関心と愛着を持ち続けている人を対象とした「陸前高田思民」制度の創設 | 「陸前高田思民」創設事業 | 本市に関心と愛着を持ち、何度も繰り返し訪問され、市民交流を続けている方々や、ふるさと納税に協力をいただいた人など、本市に関わりを持ち続けている方々を対象として、「思民」の会員募集や情報発信を行い、本市との新たな人の流れを創造する。 | 平成30年1月に「陸前高田思民」制度を創設し、ふるさと納税の返礼品として「陸前高田思民権」を設けることなどにより、思民の募集を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 震災復興で支援される側と支援する側という観点から「思民」という考え方ができたと思うが、必ずしもそのような観点から考える必要はないものと思われる。 「思民」について情報発信する際には、より効果的なものとなるよう、どのSNSがよいか、誰を対象とするのかについて、改めて見直すべきと思われる。 「思民」を募集するのではなく、住民などからふさわしい方として推薦された方を認定する方法にした方がよい。 |
| | | ノーマライゼーションツアーの企画・実施 | ノーマライゼーションステップアップ事業 | ・バリアフリーツアーを取り扱う旅行会社と市内の障がい者と連携して、障がい者向けツアーを企画・商品化し、DMO組織が販売する。 ・LGBT組織に対して「ノーマライゼーションプロジェクト」への参加を要請し、住みやすい・訪れやすいまちづくりへのヒントを得るとともに、市内で勉強会を開催し、LGBTに対する理解の醸成を図る。 | 平成30年3月に、車いすバスケットボール日本代表選手と市内の小中学生による車いすバスケットボールの体験会を行った。 | 世間ではLGBTに関する理解が進んできているが、総合戦略にはそのあたりについて記載されていないことが気になる。 |
| 2 復興を契機に若者が活躍できるしごとの創出につなげる | ④ 起業家・新規事業者応援プロジェクト | 起業家の育成と雇用を生み出す新規事業への支援 | 産業創生支援事業 | 「起業プランコンテスト」を開催し、応募のあった起業予定者のプランについて、市民・商工団体・金融機関等が審査してグランプリを決定する。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年3月に、起業プランコンテストである「みんなの夢AWARDein陸前高田」を開催し、7名のファイナリストによるプレゼンが行われ、グランプリを決定した。 ファイナリストの起業化の実現に向けて、関連企業等によるサポートが行われている。 | 起業プランコンテストのファイナリスト7名は、起業を決意した非常に貴重な方々であることから、起業が実現されるようフォローしていく必要がある。 |
| 3 結婚・出産の希望をかなえ、子育てを協働で支える環境をつくる | ⑥ 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の確立 | 子育てと仕事の両立への支援 | ワーク・ライフ・バランス事業 | <ul style="list-style-type: none"> 従業員の働き方の見直しや育児休業の取得促進に関する助言等を行うことにより、働きやすい職場づくりに取り組む事業所を支援する。 仕事と家庭を両立できる「働き方」の実現を目指した研修会・講演会を開催する。 | 平成30年度内に、市内事業者を対象としたワーク・ライフ・バランスに関する講演会を開催するための検討・準備を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを実現するためには、生産性向上が不可欠である。 ワークライフバランスは女性や子育て夫婦のためにあるものといった誤解が広がりがちであることから、意識啓発を進める際には誤解を与えることのないようお願いしたい。 |
| 4 市民の安心につながる暮らしやすいまちをつくる | ⑦ 持続可能な公共交通システムの構築と安心安全なまちづくり | 「小さな拠点」の形成による利用しやすい公共交通システムの構築 | 新たな公共交通システム導入事業 | 二又地区や広田半島において、持続可能な公共交通システム(路線バス等)を構築する。 | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年4月から路線バスの広田半島循環線が新設された。 平成31年度内に陸前高田市地域公共交通網形成計画を策定する予定である。 | 今後は復興祈念公園や道の駅の整備、ラグビーワールドカップの開催などにより、観光客の増加が期待されることから、地域住民のみならず観光客の移動手段としての公共交通のあり方についても検討してほしい。 |